

■まちづくりの将来像(案)

●まちづくりの将来像の設定に対する考え方

多摩市の「歴史」や「地域特性」、「社会情勢」、「市が抱える課題」、これまでの特別委員会での意見を踏まえ、改定都市計画マスタープランの将来像を設定する上での重要な視点を下記に整理します。

- 多摩市は、「歴史」「文化」「多摩川の豊かな水環境」などを有する既存区域と、ニュータウン建設時に整備された「都市基盤」「良質な住宅ストック」「地域単位の活発な市民活動」を有するニュータウン区域の、大きく2つの区域で構成されています。
- 現在、多摩市は少子高齢化が進行し、人口が減少に転じる転換期を迎えつつあるとともに、地球温暖化に伴う気候リスクの増大や施設・設備の老朽化など、新たな課題に直面するとともに、南多摩尾根幹線道路の整備や多摩都市モノレールの町田方面延伸など、新たな交通の変化が予測されます。また、DXやMaaSをはじめとする新たな技術を取り入れたまちづくりが全国的に進められています。
- これからの20年後を見据え、都市に求められている機能の変化に対応していくため、改定都市計画マスタープランでは、これまで培ってきた「歴史」「文化」「都市基盤」など、多摩市が有する貴重な資源を活用しつつ、時代の変化に合わせた適切な維持更新や機能転換、新技術のみならず、CN（カーボンニュートラル）やGX（グリーンTRANSフォーメーション）など環境問題への対応による脱炭素型まちづくりなどにより、暮らしやすく持続可能なまちに変化していくことが必要です。
- このような地域特性、社会情勢、視点などを広く考慮しつつ、多摩市の将来に向けて、市の都市整備分野の方針を定めます。

●将来像（案）の設定

上記の考え方を踏まえつつ、第六次多摩市総合計画基本構想（素案）等で掲げられているキーワードを用いて、将来像を表現するキャッチフレーズ案を検討しました。

